

2010年4月から2年間、人身取引被害者の社会復帰・自立支援にどのようなアプローチが効果的かを模索し、グッドプラクティスの抽出をするために Foundation For Women (FFW)¹ というタイの NGO に業務委託をしてきました。

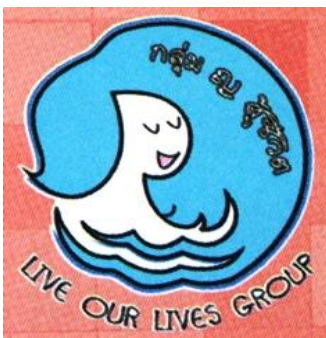
以下、2年間の業務委託の成果を紹介します。

「自分の人生を生き抜く」という名の女性被害者による被害者支援グループ (LOL) 支援

被害者による被害者支援グループ (LOL: Live Our Lives) は 2006 年に FFW の支援を受けて設立されました。

LOL のタイ語名は「イン・スー・チウィット」で、直訳すると「人生を闘う女性グループ」ですが、彼女たちの活動をみていると、「人生を闘う」というより、「自分の人生を生き抜く」女性グループと呼んだ方がしっくりくるのではないかと思います。

LOL は、海外で人身取引の被害を受けタイに帰還した女性たちで構成され、全員が海外で辛い経験をしただけでなく、コミュニティに戻ってからも借金や周りからの偏見や差別を経験しています。LOL のメンバーは、同じ経験をしてきた被害者の医療支援、法的支援等を行いながら自尊心回復や社会復帰のお手伝いをしてきました。グループのロゴも最近作成されました。



ロゴは、女性が途切れることのない川を抱きしめている様子を示しています。青は強さを、白は穏やかさを象徴しています。

¹ FFW は 1984 年に女性と子どもを人身取引や暴力から守るために発足したタイの老舗 NGO です。

JICA の支援による成果

【LOL の組織強化】

LOL は 2006 年に FFW が主催した「人身取引被害者の社会復帰会議」をきっかけに発足しました。以降、FFW や ILO の支援を受けながら人身取引被害者のネットワークを広げ、人身取引被害者に対してだけでなく、これから海外に出稼ぎに行こうとしている女性たちの相談にもものってきました。



JICA の支援を受けてからは、メンバー間選挙で代表、事務局、経理等を決め、定期的にミーティングを持ち、組織として機能するようになりました。定例ミーティングで、自分たちに不足しているものを自らで分析し、その結果を受けてリーダーシップ研修、カウンセリング講座、被害者に対して法的支援を効果的に行うための人身取引対策法の勉強会等を行いました。

これらの活動を通して被害者支援を効果的に行う知識や能力が強化されました。メンバー一同で安全な出稼ぎキャンペーン、帰国者の家庭訪問、裁判同行などを企画運営することによってメンバー間の結束が強まり、チームワークも格段に良くなりました。

【LOL の社会復帰支援活動の充実化】

社会復帰を支援するということは、被害者を故郷に戻したり、被害者が安全だと思う所に帰したりして終わりということではありません。帰国して住居を定めてから、どうやって生活をしていくのか考えなければなりません。LOL は被害者が将来計画を立てるお手伝いをしてきました。また、

被害者が故郷に戻っても偏見・差別に打ちのめされないようにカウンセリングも行ってきました。

●権利やアクセスできる社会資源の情報提供

特に性的搾取に遭った帰国者は、他人にその事実を知られたくないために、自分の過去を隠します。自分が被害者であることを誰にも知らせないので、被害者認定されるとどういった権利が発生して、どういったサービスを受けられるのか知りません。そのような人々に対してLOLは正しい情報を伝えてきました。また、帰国者が希望すれば被害者認定の支援、人身取引被害者基金への申請、裁判の準備の支援も行いました。

●職業訓練の奨励

JICAの支援で、地元の職業訓練施設で約10人のメンバーが料理とコンピューターのコースに参加しました。そのうち二人は、シェフとしてホテルで働くようになり、一人は電子関連の会社で働くようになりました。

●心療内科専門医との面会への同行支援

LOLメンバーのカウンセリングだけでは対応しきれないほど深刻なトラウマを抱えた被害者には、病院の心療内科医との面会の調整や同行支援もしました。また、被害者が新しい生活を始めるための資金についてもどういった社会資源があるのか紹介しました。

●家庭訪問をしながらフォローアップ

多くの人身取引被害者は、自らが被害者であることを近所の人だけではなく、自分の家族にも隠しています。従って、被害者にどういった権利があって、どのような公的サービスが受けられるのかも知りません。LOLは、新しく海外から帰国した女性たちを家庭訪問して、彼女たちが受けられるサービスについて情報を提供すると同時にLOL活動についても知らせてきました。孤独になりがちな人身取引被害者にとって、LOLは心強い存在です。LOLは通常のキャンペーン活動には参加できない、隠れた被害者を家庭訪問によってフォローしました。

●加害者訴追の支援

LOLメンバーは、加害者訴追や賠償金請求など裁判に持ち込む準備や裁判の同行支援も開始しました。



【仲間たちの支援だけではなく、

予防活動にも貢献】

自分たちと同じ経験をした帰国者だけではなく、これから海外でお金を稼ぎたいと思っている人々に対しても「安全な海外出稼ぎ・人身取引防止キャンペーン」を企画・運営しました。

海外出稼ぎが全て悪い訳ではありません。メンバー間でどのようにしたら合法的に働きに行けるのか、騙されないポイントはなんなのかをキャンペーンを行う県の労働事務所と社会開発人間安全保障事務所の職員と連携して企画しました。JICAが支援していた期間に、東北部と北部の村においてキャンペーンを8回開催しました。これらのキャンペーンは主に海外出稼ぎの多い地区の住民を対象に行いましたが、高校生を対象にしたキャンペーンも行いました。



将来海外で働くことになるかもしれない高校生に人身取引のリスクについて伝えました。

【啓発教材や広報冊子の作成】

これから海外出稼ぎに行く人たちが自分たちのような不幸な目に遭わないように、また人身取引被害者がどのような経験をしてきたか多くの人に知ってもらうために、DVDや本などの啓発教材や広報資料も作成しました。教材や資料は、LOLメンバー自身が自分たちの体験を共有し、どのようにしたら予防できるか議論して作成しました。



LOL 広報誌英語版、活動紹介DVD、冊子「正義を求めて」

【政府機関との連携】

上記の活動をしている過程で LOL の活躍が認められ、今ではシーサケート県、ウドンタニ県、ウボンラチャタニ県の社会開発人間安全保障事務所や労働事務所と連携して、人身取引の予防と保護に関して一緒に活動するようになりました。また、在バーレーンのタイ大使館とも協力して被害者が無事にタイに帰国できるように支援もしました。このように、LOLメンバーは行政のパートナーとしての役割も果たすようになりました。現在、LOLは人身取引被害者の支援団体として社会開発人間安全保障省に登録要請をしているところです。要請が認められれば、LOLは団体として人身取引被害者基金から財政支援を受けて活動を行うことができます。

【今後の課題】

2006年に発足したLOLは、2010年から2年間、JICAの支援を受けることで、組織として成長しました。3月6日にFFW・LOLによる2年間の成果発表イベントが行われ、同イベントには、検察

や弁護士、ソーシャルワーカーといったMDTメンバーをはじめ、NGOや国連、政府援助機関、現地メディアなど70名近くが参加しました。



開会の挨拶をするタイ事務所川端次長とFFWアマラ副理事長

2年間の活動の評価を担ったタマサート大学ピンハタイ女史は、被害者が被害者を支援するピアサポートアプローチが被害者の精神的回復や行動変容をもたらし、社会復帰に大きく貢献すると指摘しました。

MDTへの提言としては、まず、社会復帰には個々の被害者が抱える問題やニーズを考慮した上で中長期的な支援が必要であることが指摘されました。人身取引被害者とならざるをえなかった借金、貧困等の原因をよく理解できなければ、被害者を故郷に帰しても、仕事がなければ再び人身取引被害者となる可能性があるからです。また、心の傷を克服する為の専門家によるカウンセリング、被害者が支援を受ける心の準備ができているかどうかを考慮した柔軟な支援サービスの提供、被害者が個人の希望・市場のニーズに合った職業選択ができる職業訓練の実施等が重要であると指摘しました。MDTメンバーに対しては被害者の権利を尊重した発言・態度で支援することが求められました。

JICAの支援によって、LOLが今までやりたかったのにやれなかった数々の活動ができるようになりました。しかしながら、今後は自分たちの活動費を自分たちで見つけていかなければなりません。これは大変難しいことで、しばらくはFFWが財政支援をしていきます。安定した財政支援の早急な確保が今一番大きな課題です。